

# 平成23年度職員研修



鹿児島市立宮小学校

# 資料目次

## I. 研究の概要

- ①研究テーマについて
- ②めざす子ども像
- ③研究の視点について
- ④研究組織について
- ⑤年間計画
- ⑥これまでの取り組み

## II. 研究授業指導案

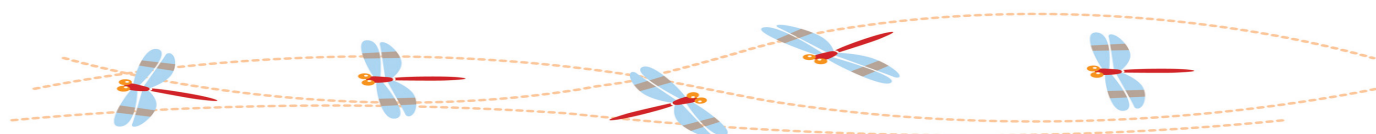
- ①6年生 国語科  
「学級討論会をしよう」
  
- ②3年生 国語科  
「ちいちゃんのかげおくり」

## III. 授業研究

- ①研究協議の進め方
- ②グループ討議の進め方

## IV. 資料

- ①国語科の目標と内容



# I 研究の概要

## ①研究テーマについて

〈宮小学校 研究テーマ〉

自分の思いや考えを生き生きと伝え合う子どもを育てる学習指導法の研究  
～コミュニケーション能力を高める活動を通して～

(2/3年次)

### 1 テーマ設定の理由

#### (1) これまでの研究と子どもの課題

昨年度から、自分の考えを伝えられる子どもを育てるためにはどうすればよいのかテーマに研究をかさねてきた。小規模校の特性として、家庭的な雰囲気があるために、話さなくても分かってもらえる、自らアクセスしなくても他者から声をかけてもらえる環境にある。しかし、言葉を介さないコミュニケーションに頼っているために、きちんと相手に自分の思いが伝わっていなかったり、伝えるための言葉を知らなかったり、伝えたいという意欲の高まりが見られなくなった。そこで、子どもたちの「話す」「聞く」「話し合う」に焦点を絞り、教科を絞らずに、全教科を対象に全員で研究授業を行い、学習過程の中に、子どもたち同士で話し合い活動を必ず入れることとした。

しかし、自分の考えを伝えることはできるが、話し合いを通して意見をまとめていく活動がなかなかうまくいかず、意見がまとまらなかったり、自分たちで解決ができなかったりする姿が見られた。原因として、子どもたちが何を基準にして話し合えばよいのか話し合いの視点が不明瞭だったことと一人一人が自分の課題として捉え、考えることができなかったために話し合うことができなかったのだと思われる。

また、聞く態度や能力にも差があり、話す相手を見ていなかったり、友だちの考えを自分の考えを比較し、生かしたりすることができなかった。原因として、教師側が明確な児童の聞くことに対する基準をもっていなかったことや何を聞くのか聞き方の技術を指導できていなかったことが考えられる。

そこで、よい話し手を作るには、聞き手の育成が重要と捉え、児童に聞く力をつけることと、自分の考えを伝え合い活動の在り方を今後の研究課題とすることとした。また、今年度からは、国語科に教科を絞り、教科の特性を生かしながら、話す聞く力をいかに育てていくかを考えていくことにした。

#### (2) 新学習指導要領改訂の趣旨

新学習指導要領総則の「教育に関する改善事項」

- ① 言語活動の充実
- ② 理数教育の充実
- ③ 伝統や文化に関する教育の充実
- ④ 道徳教育の充実
- ⑤ 体験活動の充実
- ⑥ 外国語活動の充実

#### (3) 本校の実態

- ・児童数61人、各学級20人以下の少人数学級の学校である。
- ・特認校制度により、他の校区から通学する児童もいる。
- ・地域支援ボランティア校に指定されており、地域の方々の支援をもらい交流する機会が多い。

#### (4) 児童の実態

- ・素直に人の話を聞くことができる。

- ・児童一人一人がみんなの前で発表する機会が多い。
- ・異学年同士の交流が見られる。
- ・限られた人数のため、多様な意見が出にくい。
- ・発表意欲に差がある。
- ・話し合いを自分たちで進めることができない。

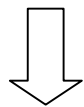
(5) 児童の言語の現状

- ・言葉使いが悪い。(例:「きもい」「うざい」「まじー」など)
- ・短縮語(例:「めっちゃ」「すごっ」「はやっ」「むずっ」など)
- ・らぬき言葉(例:「食べれる」)
- ・間違った日本語(例:「すみません」「多いかった」「全然大丈夫」)
- ・語彙力不足, 意味を知らない

②めざす子ども像

〈宮小学校のめざす子ども像(能力)〉

よい聞き手・よい話し手の育成



コミュニケーション能力が高まる

- ・相手を意識して分かりやすく(話す子)
- ・相手の考えを理解し, 自分の考えと比べながら(聞く子)
- ・問題を解決するという目的をもち, 相互の意見を認め合いながら(話し合う子)

〈宮小学校のめざす子ども像(態度)〉

(聞くとき)

みみをすませて  
やさしい気持ちで  
しずかに  
よいしせいで  
うなずきながら  
 聞く宮の子

(話すとき)

みんなの方を見て  
はやさしさに気をつけて  
しっかり最後まで  
よくわかるように  
うしろまで聞こえる  
 ように話す宮の子

### ③研究の視点

視点1 児童が主体的に話し合うための具体的な働きかけについて

- ・「しらべる」過程での授業展開の工夫（司会役を中心とした話し合い活動）
- ・場の設定の工夫（個人→グループ→全体）
- ・話し合いに参加できない児童の把握と支援の工夫

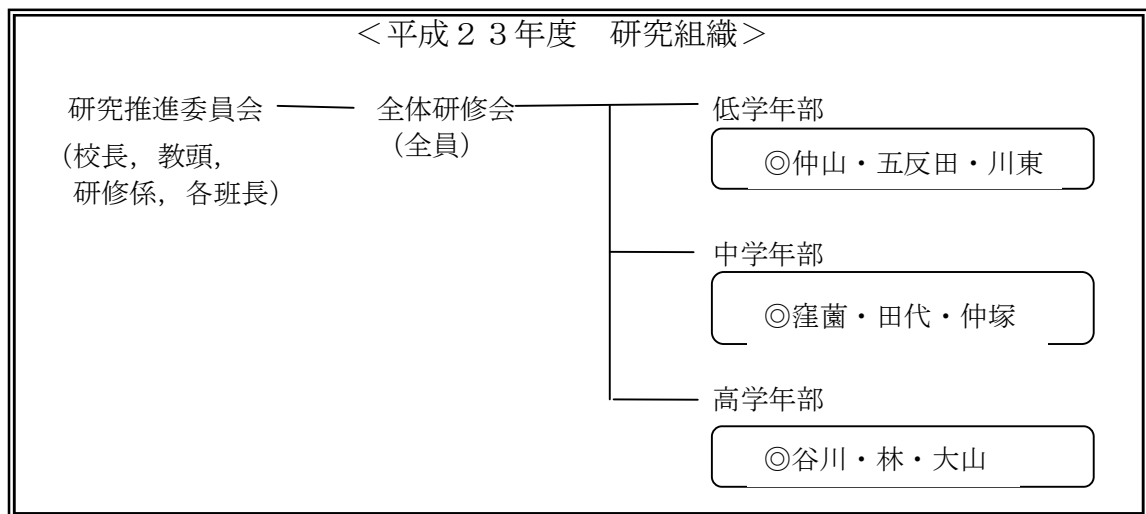
視点2 国語科の目標に則した「話すこと・聞くこと」の能力を高める活動内容について

- ・各学年の「話すこと」「聞くこと」の目標と内容をふまえた授業作り
- ・自分の考えを伝える教具の工夫（発表黒板・ワークシート）
- ・「話す」「聞く」「話し合う」能力を振り返る評価の工夫
- ・宮小合言葉の活用

視点3 豊かな語彙力を育む環境づくりについて

- ・朝のスピーチの工夫
- ・読書活動の活性化（言葉を知る）
- ・設営の工夫→言葉の木（新出語句や理解が難しい言葉の掲示）  
→読書の木（読んだ本の紹介）
- ・様々な年代の方とのふれあい活動（異年齢の方と話す機会作り）

### ④研究組織について



## ⑤年間計画

月 日	時間	研修内容	担当
4. 25 (月)	2	研修内容及び仮説の検討。研修計画検討	研修
5. 9 (月)	1	通知表検討	教務
5. 15 (日)	3	◇フィールドワーク	社会科・郷土教育
5. 17 (火)	1	研究推進委員会① (研究内容の検討)	研修・班長
5. 31 (月)	1	指導案検討①・授業準備分担	研修・班長
6. 7 (月)	2	◇ICT研修	教育方法
6. 15 (水)	1	小中連携研修会	牟礼ヶ岡小
6. 20 (月)	2	検証授業 (細案①)・授業研修 (第6学年)	研修・学年部
6. 22 (水)	1	研究推進委員会② (研究内容の検討)	研修・班長
6. 27 (月)	1	学力検査分析	学力分析
7. 7 (水)	1	研究推進委員会③ (1学期の取り組みの反省と課題)	研修
8. 1 (月)	2	◇保健指導 (給食センター栄養士 大保玲子先生の講義)	保健指導
8. 19 (金)	2	◇教科指導研修 (外国語活動)	外国語活動・研修
9. 1 (月)	2	テーマ研修	研修
9. 12 (月)	2	◇人権同和教育研修	人権同和教育
9. 21 (水)	1	テーマ研修・班会	研修・班長
9. 26 (月)	1	指導案検討 (3年生研究授業)	研修・学年部
9. 29 (水)	1	研究推進委員会④ (2学期の課題の検討・研究授業について)	研修・班長
10. 19 (水)	1	模擬授業 (3年生研究授業)	研修・学年部
10. 24 (月)	1	指導案検討 (3年生研究授業)	研修・学年部
10. 31 (月)	2	◇生徒指導研修 (鹿児島大学教育学部 大坪治彦教授の講義)	生徒指導
11. 7 (月)	2	・検証授業・授業研修 (第3学年)	研修・学年部
11. 21 (月)	1	保健研修 (学校保健研究協議会のリハーサル)	保健指導
12. 5 (月)	2	◇テーマに関する研修 (南日本放送 田辺令吉アナウンサーの講義)	研修
1. 16 (月)	2	指導案検討 (2年生研究授業) / 模擬授業	研修・学年部
1. 30 (月)	1	指導案検討 (2年生研究授業)	研修・学年部
2. 6 (月)	2	・検証授業・授業研修 (第2学年)	研修・学年部
2. 15 (水)	1	☆教育課程編成について	教務
2. 20 (月)	1	☆教育課程編成について	教務
2. 23 (木)	1	研究推進委員会⑤ (1年間の研修のまとめ, 次年度の計画)	研修
3. 5 (月)	1	研修の反省・課題	研修

### <研究授業について>

- 研究授業を各学期に一度, 低・中・高学年交代で行う。
- 指導案検討, 模擬授業を踏まえて授業研究を行う。

### <一般研修について>

- 保健・人権同和教育・生徒指導・教科に関する研修を1回ずつ入れるようにする。

## ⑥これまでの取り組み

- 朝のスピーチ…全学級で発達段階に応じた朝のスピーチに取り組んでいる。3年生以上は、スピーチの際にメモを取り、ファイルに綴っている。また、全職員が各学級に入り子どもたちのスピーチの指導にあたっている。

	1・2 学年	3・4 学年	5・6 学年
内容	自分の生活から	自分の生活から	新聞の内容
2 学期	・友だちのスピーチを聞いて、何について話したのかを聞き取る。スピーチを聞いて、友だちの話の内容について質問を考える。		
	・1分間話す、聞く ・3分間質問	・1分間話す。(聞くことに集中→メモを取りながら聞く) ・4分間質問タイム (1分メモや質問考えタイム・ <b>3分発表</b> )	

### 聞き方について

	活動内容	留意点
9月	1分間、聞くことに集中(メモなし)	各月の月末に児童の実態についてアンケートを取り、実態に合わせて内容の段階を上げていく。
10月	聞きながら、キーワードのみをメモする。	
11月 12月	聞きながら、前を向いてメモをとる。	

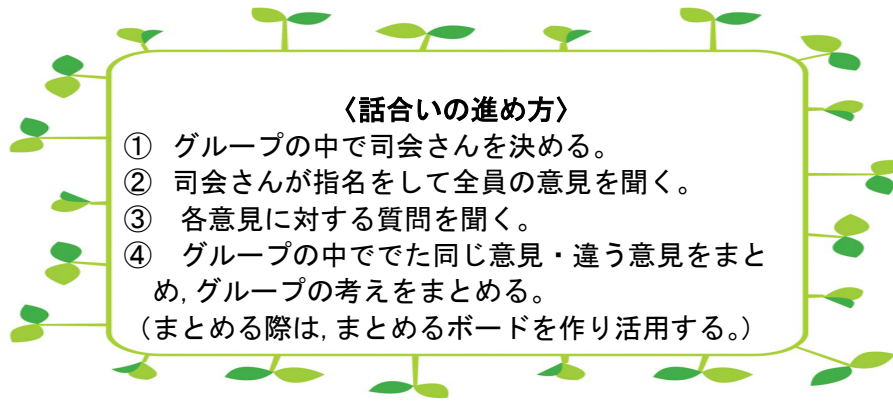


- 宮小合言葉の活用…全学級に聞くとき・話すときの合言葉を掲示している。話す・聞く時の態度を確認するために、授業だけでなく学校生活の中でも活用している。

(聞くとき)	(話すとき)
<b>み</b> みをすませて	<b>み</b> んなの方を見て
<b>やさ</b> しい気持ちで	<b>は</b> やさしに気をつけて
<b>し</b> ずかに	<b>し</b> っかり最後まで
<b>よ</b> いしせいで	<b>よ</b> くわかるように
<b>う</b> なずきながら	<b>う</b> しろまで聞こえる
聞く宮の子	ように話す宮の子



- 「しらべる」学習過程の進め方…国語の「しらべる」過程の際に、児童で話し合いを進められるようにするため、進め方カードを作成した。(今後、活用していく予定)



～教師～

1. 研修の最初に行うウォーミングアップ…職員のコミュニケーション能力を高めるため10分ほどでできる簡単なゲームを行っている。全員が話す時間・互いに感想を交流する時間を必ずとるようにしている。  
(例：1分間相手を誉める。他己紹介など)
2. 話し合いの進め方の工夫…研修で全員が意見を発表しやすいように、グループ討議を多く取り入れた。話し合いの柱を決め、グループで話し合い、まとめた意見を全体に発表し共有している。今回から研究協議でもグループ討議を導入。

## Ⅱ. 研究授業指導案

### ①6年生指導案

## 第6学年 国語科学習指導案

平成23年6月20日(月) 5校時

男子6名 女子10名 計16名

指導者 林 佳史

- 1 単元名 相手の意図を聞き取り、自分の主張を伝えよう  
(教材 「学級討論会をしよう」 光村六年 創造)

### 2 単元について

#### (1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、5年「豊かな言葉の使い手になるためには」等で、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことを経験している。また、5年「きいて、きいて、きいてみよう」等で、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる活動を経験している。さらに、学級会という場を設けて計画的に話し合う活動や、調べたことやまとめたことについて討論する活動もこれまで経験し、自分たちで司会・進行を行い、学級会をすることができる。

そこで、ここでは、小学校の「話し合い」の能力における完成段階として、一つの問題を肯定・否定の両面から検討し、より多くの人を納得させるための話し合いを計画的に進める力の育成を目指したいと考えた。また同時に、討論の流れを聞く立場にも焦点を当てることで、聞き取りの観点を持ち、議論を評価しながら聞く態度と能力を身に付けさせたいと考え、本単元「相手の意図を聞き取り、自分の主張を伝えよう」を設定した。

#### (2) 指導の基本的な立場

教材「学級討論会をしよう」では、ある話題に沿って、肯定グループ、否定グループに分かれ、主張、質問、結論という流れを基本とする討論会を行っている。このような討論は、立場の違いがはっきりしているため、攻撃的な議論を生みやすい。そのような場を経験することで、感情を害するような言動を慎み、相手の言葉を落ち着いて把握しようとするといった、言葉遣いや態度を育てられると考える。そのためには、討論の話題を、児童が意見を考えやすいように、児童にとって身近なことで、興味・関心のある内容、話し合う意味のある内容を選ぶ必要がある。

また、討論を聞くグループを設定し、観点をもって話し合いの流れを把握し評価する活動も並行させている。その場合、平等な立場で討論を聞きながら、より説得力のある意見はどれかお互いの意見を客観的に判断したり、二つの意見を合わせ、より良い考えを導き出したりしなければならない。そのため、話し合いを観察し、その論点や争点を見だし、評価する能力を育てられると考える。

これは、今後、子どもたちが成長し、社会参加していくうえで、決して欠くことのできない重要な力を育むことができる教材であると言える。

そこで、本教材では、学級討論会を主たる活動としながら、相手を納得させるような説得力のある意見や相手の意見を踏まえた発言ができ、互いの立場の違いを考えながら聞くことの大切さに気付かせ、実際に学級討論会を行う活動を展開していきたい。

具体的には、まず、教材文から討論の進め方について概略をとらえさせ、付録のCDで討論の様子をつかめるようにする。

次に子どもたちのアンケートをもとに、子どもの興味、関心があり、意欲的に話し合えるような論題を選び、主張や質問を考えるなど討論会の準備をさせる。その際、広い視野や、多面的な思考をもつことができるよう、全員に肯定と否定の両方の立場から意見を考えさせたい。そして、1回目の学級討論会を行い、その後、より説得力のある意見にするにはどうすればよいか、話し合いをどのようにまとめればよいか考えさせる活動を行う。そして、その反省を生かして2回目の学級討論会を行い、説得力のある意見を発言することができたか、相手の意見を踏まえて発言することができたか、互いの立場の違いはなにか考えながら聞くことができたか振り返らせる。

最後に、コラム『伝えにくいことを伝えるには』を読んで、相手の気持ちを意識した話し方、聞き方を考えさせたい。

これらの学習は、相手の意図を聞き取り、それを踏まえて自分の主張を相手に伝えるという、良い聞き手、良い話し手を育み、コミュニケーション能力を高めることへもつながるものであると考える。

### (3) 子どもの実態

本単元を学習するにあたっての、本学級の児童の実態は以下の通りである。(数字は人数を表わす。)

① あなたは、みんなの前で自分の考えを話すことは好きですか。	
好き(2)	嫌い(14)
(理由)・自分の意見をわかってもらえる。 ・言ったらすっきりする。	(理由)・間違っていたら怖い(6) ・思い浮かばない ・はずかしい(4) ・説明がうまくできない  ・考えがうまくまとまらない ・言おうと思うと言えなくなる
② あなたは、話し合い活動のとき、自分の意見を話すことと相手の意見を聞くこととどちらが多いですか。	
・話すこと(6)	・聞くこと(10)
③ あなたが、人の話を聞くときに気を付けていることは何ですか。(自由記述)	
・うなずきながら聞く(4) ・手遊びなどしないでしっかり聞く(4) ・話す人を見る(3) ・あいづちをうちながら聞く(2) ・静かに聞く(2) ・聞き逃さないように聞く(2) ・自分と比べながら聞く ・相手の話を自分と照らし合わせる ・相手の意見に付けくわえる	
④ あなたは、「討論」という言葉を聞いたことがありますか。	
・聞いたことがある(8)	・聞いたことがない(8)
⑤ 討論とは、何をすることだと思いますか。(自由記述)	
・わからない(6) ・話し合いのような会議 ・話し合うこと ・文章を書いて話し合うこと ・自分の意見を言い合うこと ・二つに分かれて意見を出して戦うこと ・何人かで、自分の考えを話したり、聞いたりすること ・相手の理論に対して、自分の方が正しいとし、相手を納得させること	

本学級は、男子6名、女子10名、合計16名の学級である。休み時間などは、男子も女子も関係なく、話をたくさんしているが、授業中は、特定の児童しか積極的に発表できないなど、人前で自分の考えを話すことに苦手意識を感じている児童が多い(①)。その理由としては、「間違っていたら怖い」や「はずかしい」などが多く、自分の考えに自信をもてていない児童が多いことが分かる。その他にも、「考えがうまくまとまらない」など、自分の意見をまとめることが苦手な児童もいる。こうしたことから、話し合い活動のときも、自分の意見を積極的に発言することができる児童が少なくなっているのではないかと考えられる(②)。

話の聞き方に関しては、「うなずきながら」、「話す人を見る」など、態度面のみを意識して聞いている児童が多く、「自分と比べながら聞く」などのように、相手の意見と自分の意見を比べ、自分の考えをまとめるところまで意識している児童は少ないことが分かる(③)。

また、討論については、耳にしたことがない児童が学級の半分ということから、これまでの生活で経験したことがあまりなく、どのようにするものなのかわかっていない児童が多いということが分かる(④⑤)。

以上のことから、まず、話し合いとは異なる、討論というのはどういうものなのか、しっかり理解させ、体験させたいと考えた。次に、自分の意見に自信をもたせ、多くの児童が発言できるように、意見をまとめたり、同じグループで話し合わせたりする時間を確保させたい。また、相手の意見を聞く際も、これまでのように態度面だけに気を付けるのではなく、発表を聞き、相手の意見と自分の意見を比べ、それを踏まえて自分の考えをまとめるという聞き方を意識させたい。

#### (4) 指導上の留意点

以上のことから、また、本校の目指す子ども像である、「相手を意識してわかりやすく話すことができる子ども」「相手の考えを理解し、自分の考えと比べながら聞くことができる子ども」「問題を解決するという目的をもち、相互の意見を認め合いながら話し合うことができる子ども」を育成するために、指導に当たっては、学習内容の設定や指導方法を次のように工夫することが大切であると考えます。

「つかむ・みとおす」では、まず、これまで学習してきた方法で話し合いをさせることで、これまでの話し合いと、討論会の違いに気付かせる。そして、より多くの人を納得させる意見を見つけるための、一つの方法として討論会を行うことを伝える。

「しらべる」では、討論会の進め方や役割などを確認し、1回目の学級討論会に向けて、準備をさせる。このとき、全員に肯定側の意見、否定側の意見を考えさせてからグループ分けを行い、話し合わせることで、多様な意見に気付かせたい。また、討論の話題については、児童にアンケートを行い、肯定、否定が同数ぐらいになったものの中から選ぶことで、児童にそれぞれの立場の意見を考えやすくさせたい。

「ふかめる・まとめる」では、第1回の学級討論会を行うことで、よりよい意見やまとめ方に気付かせたい。そして、討論会で発言した自分たちの発言やまとめを見直させることで、より多くの人を納得させる説得力のある話し方は、議論の筋道に沿って、話す順序を考え、体験や具体例を入れて話すことが必要で、相手の意見を踏まえて発言しなければならないことに気付かせたい。そのためには、相手の意見を自分の意見と比べながら聞いたり、互いの立場の違いを考えたりしなければならないことに気付かせたい。

「いかす・ふりかえる」では、第2回の学級討論会を行い、学習の振り返りをさせる。その際、第1回目の討論会とは違う立場になるようにグループを分けることで、様々な立場から意見を考えたり、まとめたりできるようにさせる。また、学級討論会での自分の意見や発言の仕方、聞き方等を振り返らせることで、自分の意見の伝え方、相手の意見の聞き方の定着を図りたい。

### 3 目標

- (1) 討論会における言葉の使い方や討論の進行方法などについて関心をもち、進んで討論に参加することができる。
- (2) 討論会の話題に沿って、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。
- (3) 理由を挙げながら、説得力のある意見を発表することができる。
- (4) 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。

### 4 指導計画 (全7時間)

過程	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ(◇)と評価(☆)
つかむ・みとおす①	<b>1 学習の目的と見通しをもつ。</b> (1) 5年生までに学習した話合いの方法で学級会を行い、その方法とは異なる、学級討論会のねらいや準備について、教材文をもとに概略をつかみ、学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">学級討論会をして、多くの人を納得できる意見を見つけよう。</div>	◇ これまで学習してきた話合いの仕方です。学級会を行い、その後討論会について確認することで、討論はこれまで学習してきた話合い活動とは、異なるものだということに気付かせる。 ◇ 多くの人を納得させる意見を考えるために、討論という方法で話合いを行うことを確認する。 ☆ 討論会に興味をもち、単元の見通しをもつことができる。
しらべる②	<b>2 学級討論会の準備をする。</b> (1) 付録のCDを聞き、討論会の進め方や役割分担を確認する。 (2) 肯定グループ、否定グループ、聞くグループに分かれて、学級討論会の準備をする。 (3) 第1回学級討論会を行う。	◇ 討論会の進め方、役割分担を確認し、付録のCDを聞かせることで、学級討論会の大きな流れ、発言の仕方をつかませる。 ◇ 全員に肯定側の意見、否定側の意見を考えさせてからグループ分けを行い話し合うことで、多様な意見に気付かせたい。 ◇ 司会進行の児童や、発言がうまくできない児童には、助言をして、スムーズに進行できるようにする。 ☆ 討論会の進め方や役割をつかみ、自分の意見をもつことができる。
ふかめる・まとめる①	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <b>3 1回目の学級討論会を振り返り、気を付けなければならないこと、改善すべきことなどを話し合う。(本時)</b> </div>	☆ 多くの人を納得させるための意見や発言の仕方、話の聞き方に気付くことができる。 ◇ 前時の振り返りを行うことで、多くの人を納得させる意見はどんなものか思い出させる。 ◇ 第1回目とは違う立場になるようにグループを分けることで、様々な立場から意見を考えたり、まとめたりさせる。 ◇ 自己評価をさせることで、1回目と比べて良くなったという成就感を味わわせる。
いかす・ふりかえる③	<b>4 第2回学級討論会を行い、本単元の学習を振り返る。</b> (1) 第2回学級討論会に向けて、肯定グループ、否定グループ、聞くグループに分かれて、学級討論会の準備をする。 (2) 第2回学級討論会を行う。 (3) 本単元の学習を振り返り、自分の意見をどのように伝えればよいか考える。	☆ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。 ☆ 説得力のある意見を発表することができる。 ☆ 話合いをまとめることができる。

### 5 本時

#### (1) 目標

- 多くの人を納得させる説得力のある話し方に気付くことができる。〔話すこと〕
- 多くの人を納得させるには、自分の意見と比べながら相手の意見を聞き、それを踏まえて発言する必要性に気付くことができる。〔聞くこと〕
- 互いの立場の一番の違いは何か考えながら聞き、話合いのまとめ方に気付くことができる。〔話し合うこと〕

(2) 本時の展開にあたって

本時は、単元終末時の第2回学級討論会に向けて、説得力のある話し方、相手の意見の聞き方、話合いのまとめ方に気付く学習である。そのために、「しらべる」段階では、第1回学級討論会を振り返り、自分たちの話し方、聞き方に気付かせたい。そして「ふかめる、まとめる」段階では、それぞれのグループごとで、話し方、聞き方、まとめ方はどうあるべきか話し合わせ、説得力のある話し方、相手の意見の聞き方、話合いのまとめ方に気付かせたい。最後に「いかす」段階では、自分たちの意見をどう改善させればよいか話し合わせることで、説得力のある話し方、相手の意見の聞き方、話合いのまとめ方の定着を図り、単元終末時の第2回学級討論会への意欲をもたせたい。

(3) 実際 (4/7)

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ(◇)と評価(☆)
つかむ・みとおす	1 討論会のねらいを確認する。  第1回学級討論会を振り返り、より良い発言の仕方、聞き方、まとめ方を考えよう。	↑ 7 ↓	◇ ビデオを見て前時の討論会の様子を喚起させる。 ◇ 討論会を振り返り、より良い発言の仕方、聞き方、まとめ方を考えることを伝える。
	2 学級討論会での自分たちの話し方、聞き方、まとめかたを振り返る。 ・ 自分たちの主張には説得力があったかな。 ・ 何に気を付けて話を聞けばいいのかな。	↑ 8 ↓	◇ 前時の反省シートを読み合い、自分たちの発言の仕方、意見は説得力があったか、何に気を付けて話を聞いたか、まとめ方はどうだったか等振り返らせることで、話し方、聞き方の課題に気付かせる。
ふかめる	3 説得力のある話し方、相手の意見の聞き方、話合いのまとめ方に気づき、まとめる。	↑ 20 ↓	◇ 説得力のある話し方、話の聞き方、話合いのまとめ方はどうあるべきか、話し合わせる。 ◇ 教師が討論会で意見を発表しているビデオを見せることで、説得力のある話し方を、具体的理解させる。
まとめる	○ 説得力のある話し方 ・ 体験や具体例 ・ 相手の意見を踏まえた発言 ○ 話の聞き方 ・ 自分の意見と比べる ・ 互いの立場の一番の違いを考える ○ 話合いのまとめ方 ・ 互いの意見の一番の違いを比べよ		◇ 第1回学級討論会のまとめを提示することで、どのようなまとめ方がよいのか考えさせる。
いかす	4 自分たちのグループの意見や発言の仕方、まとめ方を改善する。	↑ 8 ↓	☆ 説得力のある話し方に気付くことができる。 ☆ 自分の意見と比べたり、違いを考えたりしながら聞く必要性に気付くことができる。 ☆ 多くの人が納得するまとめ方に気付くことができる。(ワークシート、発言)
ふりかえる		↑ 2 ↓	◇ 初めの主張や最後の主張に説得力をもたせるにはどうすればよかったか話し合わせ改善させる。 ◇ 第2回の学級討論会のテーマを伝えることで、次時の活動に意欲をもたせる。
	5 本時の学習を振り返り、第2回学級討論会のテーマを知る。		

## 1 単元 物語の感想をまとめよう (教材名「ちいちゃんのかげおくり」光村図書3年下)

## 2 単元について

## (1) 単元の位置とねらい

子どもたちはこれまでに1学期に「きつつきの商売」や「海をかつとばせ」などの学習を通して、場面の情景や登場人物の行動、心情の動きを考えながら読み進める力を高めるとともに、文学作品のおもしろさを読み取り、気持ちがよく表れるように音読したり自分なりの感想をまとめたりする力を身につけてきている。

しかし、想像を膨らませて内容を読み取ったり、叙述に基づいて根拠をはっきりさせた考えを表現したりする力には個人差がある。深く読み取って考えるような発問に対しては活動が止まってしまう児童も少なくない。理解できていても言葉としてうまく表現できなかつたり、自分の考えに自信がもてず間違いを恐れたりしていることも要因と考えられる。

そこで、主人公が幼い子どもで、5つの場面の場面設定がはっきりしている本教材の学習を通して、場面の移り変わりや情景を、叙述をもとにして想像しながら読んだり、書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読んだりする能力を高める。さらに児童一人一人が自分の考えをもって発表し、伝え合うことで、児童が考えを広げたり深めたりできるようにするために、本単元を設定した。

## (2) 指導の基本的な立場

本教材は、幼い女の子を主人公に、戦争に巻き込まれた家族の姿を描いた物語であり、子どもたちにとっては教科書で出会う初めての戦争文学作品である。場面構成は、「記念写真として、家族そろってかげおくりをする場面(第1場面)」「ひとりぼっちになる場面(第2場面)」「ひとりで母と兄を待ち続ける場面(第3場面)」「ひとりでかげおくりをする場面(第4場面)」「戦後、子どもたちが幸せそうに遊んでいる場面(第5場面)」の5つの場面からなる。これらの場面对比させることで読みを深められると考える。また、当時の時代背景を正確に把握することは難しいが、情景や人物の言動が生き生きと描かれていることや主人公が幼い子どもであることから感情移入もしやすく、家族一緒のかげおくりを楽しんだり、ひとりぼっちになった悲しさや恐怖を感じたりしながら読み進むことができると考えられる。さらに、家族そろってした「かげおくり」、ちいちゃんが兄とした「かげおくり」、そして、ちいちゃんがたった一人でする「かげおくり」の三つのかげおくりの状況を思い浮かべたり、五の場面の存在意義を考えたりすることで、戦争の悲惨さや平和を願う作者の思いを感じ取ることができると考えられる。児童一人一人が自分の考えをもって発表し、伝え合う活動を通して、児童が考えを広げたり深めたりし、戦争の悲惨さや平和の大切さを考えるきっかけとなるようにしたい。

### (3) 児童の実態

本学級の児童は、全体的に落ち着きのある学校生活を送っている。仲もよく、あまりトラブルも起こらない。授業に対しても意欲的に取り組み、発表も積極的である。その反面、多様な意見があまり出ず、一部の意見や場の雰囲気と同調してしまい、意見を交流することに課題を感じている。  
本単元の構成にあたって、次のような調査を行なった。

【調査期日】平成23年9月20日 【調査人数】9名 【調査方法】アンケート(プリントによる調査)

#### ア 教科に関すること

##### 1 国語の勉強

好き—9人 まあまあ好き—0人 あまり好きではない—0人 きらい—0人

##### 2 国語の中で好き・苦手な学習(複数回答)

領域	内容	好き	苦手
く書	文章を書くこと	4人	5人
	書写	8人	1人
読む	文章を読み取ること	4人	5人
	本を読むこと	9人	0人
	音読すること	6人	3人
話す聞く	考えを話すこと	3人	6人
	話を聞くこと	6人	3人
	話し合うこと	4人	5人
言語	言葉や漢字の学習	8人	1人

##### 3 発表について

よく発表する	1人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言うときすっきりする</li> <li>・あっていたらうれしい</li> <li>・まちがっても、みんなが教えてくれて安心できる</li> <li>・理由がいえない</li> <li>・正解かどうか心配</li> <li>・きんちょうする</li> <li>・考えが浮かばない</li> </ul>
どちらかといえばする	6人	
どちらかといえばしない	2人	
ほとんど発表しない	0人	

##### 4 発表する場所について

場所	人数	理由
2人組	1人	・みんなの前だとときどきする
グループ	6人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな理由がわかる。</li> <li>・話しやすい</li> <li>・うまくまとまる。</li> <li>・落ち着く</li> </ul>
全体	2人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなに聞いてもらえる。</li> <li>・みんなの考えがわかる。</li> </ul>

##### 5 「話し合う」とはどんなことだと思いますか。

- ・意見を言ったり聞いたりすること
- ・意見を出し合うこと
- ・同じところや違うところを見つけること
- ・話をしてから決める・まとめること

##### 6 話すことについて(宮小合言葉)

	できている	まあまあできている	少しできていない	あまりできていない
みんなの方を見て話す。	3	5	1	0
早さに気をつけて話す。	1	6	1	1
しっかり最後まで話す。	3	3	2	1
よくわかるように話す	3	4	2	0
後ろまで聞こえるように話す	4	2	3	0

##### 7 聞くことについて(宮小合言葉)

	できている	まあまあできている	少しできていない	あまりできていない
耳をすませて聞く。	5	4	0	0
優しい気持ちで聞く。	8	1	0	0
しずかに聞く。	7	2	0	0

よいしせいで聞く。	2	4	3	0
うなずきながら聞く。	0	7	0	2

## イ 教材に関すること

### 8 物語の学習について

好き	7人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろな出来事や人物が出てくる。</li> <li>・ ありえないことや言葉が面白い。</li> <li>・ 音読や劇(動作化)が楽しい。</li> <li>・ お話を読むことが楽しい。</li> </ul>
どちらかといえば好き	2人	
どちらかといえば嫌い	0人	
嫌い	0人	

### 9 「戦争」と聞いて思いつくこと

- ・ 戦い—4人      ・ 人が死ぬ—3人      ・ 爆弾—3人      ・ 火事—2人
- ・ ヘルメット      ・ やけど      ・ 避難      ・ 食べ物がない      ・ 馬      ・ やり      ・ 弓      —各1人

### 10 語句の理解

	きいた事がある	きいた事がない		きいた事がある	きいた事がない
かげおくり	9人	0人	防空壕	1人	8人
出征	0人	9人	空襲警報	1人	8人
糰(ほしいい)	1人	8人	雑糰ざつとう	3人	6人
焼夷弾	0人	9人			

#### 【考察】

まず、教科に関することについて、全員が国語の学習を好きと答えており、国語学習への高い意欲が感じられる。内容別に見ると、本を読むことは全員が好きと答えているのに対し、考えを話すことは約3分の2の6名が苦手と答えている。発表についての理由から見て、人前で緊張することや自分の考えに自信を持ってないこと、根拠を明確にできないことが挙げられている。日頃から「話しやすい」「間違っても大丈夫」といった、相手の意見を共感的に受けて止めていく雰囲気作りに努めることはもちろんのこと、朝の会でスピーチを行ったり、授業では発表話形や発表聴形、話合いの進め方といった基本的な内容を押さえたりしていく。話合いについてグループなど比較的話しやすと感じている少人数での話合いの時間を確保し、発表することの経験を積ませることで、苦手意識を克服させていきたい。また、根拠を明確にして発表しようとする意識は高いが、その根拠がわからず発表に消極的になっている児童も少なくない。読む単元では叙述を丁寧に読み取ることで、自分の考えや想像の根拠を叙述からみつけだすことができる。教科書への線引きやワークシートへの書き込みを通して、本文を根拠として意見を発表する手助けとしたい。

次に教材に関することについて、物語の学習に意欲的な児童が多い。出来事や人物の言動、言葉について叙述を丁寧に読み取っていく事に加え、登場人物の置かれた状況や心情により深く迫るために、動作化や役割演技等も取り入れていきたい。また戦争に対してのはっきりとしたイメージを持っている児童はあまり多くない。映像を見せたり、図書室に戦争に関する書物を集めたコーナーを設置してもらったりし、関心を高めたい。また本文に出てくる語句についてもほとんどの語句について、初めて接する言葉であることから、写真等を用いて少しでもイメージを持てるようにする。

#### (4) 指導にあたって

以上のようなことをふまえて、次のようなことを重点に置いて指導をしていきたい。

「つかむ」「みとおす」段階では作品の世界に興味を持ち、初発の感想から学習計画を立て、学習の見通しをしっかりと持たせたい。また、初めてふれる戦争文学であることから、戦争の悲惨さを感じたり、時代背景を確かめたりするために戦争に関する図書や資料を用意したい。戦争については、単にその悲惨さだけを強調しないように、「しらべる段階」の読み取りを通して、苦しい生活の中で家族のきずなを深め、しっかり生きたいちゃんの姿や思いを共感させることで平和の大切さを考えさせたい。単元の「まとめる」段階で手紙を書くことを知らせ、場面の様子や登場人物の気持ちを考えながら、意欲的に学習に取り組んでいくようにしたい。本校研究の視点3に関して、新出漢字や難解語句の意味を掲示する国語コーナーを設置することで、いつでも確認したり復習したりできるようにする。

「しらべる」段階では、まず、本校の研究の視点1の充実に関して、単元を通して話合いの場の設定に関し、場面ごとの学習問題に対して、ガイド役を中心としたグループでの話合いを取り入れる。個人→グループ→全体と少人数から全体への話合いと発展させることで、多様な意見にふれさせ、自分の意見を広げ、深めさせたい。その際、話合いがスムーズに行くように、話合いの手順や話型をまとめた話合いカードを参考にして話合いを進めるように支援し、単元が進むにつれて話合いの充実を図ることができるようにしたい。

次に本校の研究の視点2の充実に関して、本文の叙述をよりどころとして、自分の意見を根拠をもとに発表することができるように、語句の意味をしっかりと押さえ、丁寧に叙述を読み取る。場面の移り変わりとともに変わる、ちいちゃんの置かれている状況や心情の変化をじっくりと読み取るために、言葉に着目させ、本文にサイドラインを引いたり、書き込みを入れたりしながら読み取りを進める。またワークシートを活用し、叙述と対応させながら自分の考えをまとめる時間を確保し、発表できるようにしたい。場面によっては動作化や役割演技等を取り入れ、登場人物の心情に迫らせたい。また話合いの評価について、単元を通して話し方・聞き方についての自己評価を取り入れる。「自分の意見に理由をつけて言えましたか」や「同じところや違うところを探しながら聞きましたか」等の項目について、単元を通して自己評価を行い、変容を感じさせたい。

「ふかめる・ふりかえる」段階では、ちいちゃんに手紙を書く活動を取り入れる。また、情景や気持ちを読み深める活動や感じたことを手紙に書くことにおいて、例えば、「ちいちゃんはうれしかった」と感じたときに、「どの表現からそう思ったのか」と、本文に立ち返り、その言葉の意味や作者の意図に着目させる支援を行い、読み深める手立てとしたい。

「いかす」段階では、他にもたくさん戦争文学があることを知らせ、子どもたちの意欲的な読書活動へとつなげていきたい。

### 3 単元の目標

- ・ 言葉や表現に即して、場面の様子やその移り変わりを想像することができる。【関心・意欲・態度】
- ・ 感想や読み取った内容について自分の考えをまとめ発表し、一人一人の感じ方について違いがあることに気づき、意見を伝え合う。【話す・聞く能力】
- ・ 場面の移り変わりに注意しながら読み、会話や行動を表す言葉をもとにして、情景を想像しながら読むことができる。【読む能力】
- ・ 細かい点に注意しながら読み、場面をまとめたり、文や意見を引用したりして感想を書くことができる。【書く能力】

4 指導計画 全12時間（本時7／12）

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ(○)と評価(※)
つかむ・みとおす	1 全文を読んで初発の感想を書く。 (1)かげおくりをする。 (2)難語句や新出漢字の読みを確認し、全文を通読し、感想を書く。 2 物語の設定を確かめる (1)時や場所、登場人物をおさえる。 (2)場面構成を知り、通読する。 (3)おおまかなあらすじをつかむ。 3 学習のめあてを決め、学習計画を立てる。 (1)単元のめあてをつかむ。 (2)各場面の学習課題を作る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちいちゃんの気持ちや場面の様子を想像して読もう。</li> <li>・ちいちゃんへ手紙を書こう。</li> </ul> </div>	3	○ 戦時中の人物や場面の様子をとらえやすくするために、写真や実物を提示する。 ※物語の世界に興味を持ち、初発の感想をもつことができたか。 ○ 時代背景や戦争中であることを表現している言葉を意識させながら読ませる。 ○ 登場人物や出来事などを確認し、あらすじをつかませる。つまずきのある子には、さし絵をもとに順序を確認させる。 ○ 戦争で命を落とした人たち（幼い子どもたち）がたくさんいることをおさえる。 ※ 全文を正しく読むことができたか。 ○ 前時でおさえたあらすじをもとに、場面ごとの学習課題を作る。 ※ 場面ごとの様子をおさえ、学習の見通しを持っているか。
しらべる	4 叙述に即して情景やちいちゃん的心情を読み深める。 (1)第1場面でかげおくりをする家族とちいちゃんの状況や心情を読む。 (2)第2場面のちいちゃんの状況や心情を読む。 (3)第3場面のちいちゃんの状況や心情を読む。 (4)第4場面のちいちゃんの状況や心情を読む。(本時) →2つのかげおくりを比較し、ちいちゃん的心情や変化を読み取る。 (5)第5場面の役割を考える。 (6)ちいちゃんが戦争で失ったもの考える。	6	○キーワードのライン引きやワークシートへの書き込み、音読、役割演技等を通して、登場人物の言葉や行動から、気持ちや場面の情景をとらえられるようにする。 ※叙述をもとにちいちゃんのおかれた状況や心情を想像し、読むことができたか。 ○場面ごとの学習問題に対し、「個→グループ→全体」で考え、話し合う手順をとる。特にグループでの話し合いでは、話し合いの手順や方法をまとめた話し合いカードをもとに、話し合いを進める。 ※自分と友だちの意見のよさや違いに気づき、意見を出し合うことができたか。 ○あとがきや作者について説明し、作者が伝えたかったことを考えるとともに、日常生活や平和の大切さについての考えをもたせる。
ふかめる・ふりかえる	5 ちいちゃんへの手紙を書き、発表し合う。 (1)学習してきたことを振り返りながら、手紙を書く。 (2)手紙を発表し合い、感想や意見を出し合う。	2	○手紙に表した自分の考えと友だちの考えの同じところや違うところを探したり、いいところを考えながら聞いたりすることで、自他の意見を比較できるようにする。 ※自分と友だちとの考えの違いに気づくことができたか。
いかす	6 作者の他の戦争に関する作品を読み、戦争の悲惨さや平和の大切さ、日常の大切さについて考える。	1	○「かわいそうなぞう」や「おかあさんの木」等の読み聞かせをしたり、他の作品を紹介したりし、興味を持たせ、読書の幅を広げたい。

## 6 本時（7／12）

### （1）目標

- ・場面の移り変わりや情景を、1場面でのかげおくりと比較しながら、叙述をもとに、ちいちゃんの気持ちを想像しながら読み取ることができる。【読む能力】
- ・友だちとの意見の話し合いを通して、互いの考えを認め合うことができる。【話す・聞く能力】

### （2）本時の展開にあたって

「つかむ・みとおす」段階では、初発の感想から作った学習計画・学習問題を確認し、本時の見通しを持てるようにする。特に前時で学習する第3場面で、ちいちゃんが家族との再会を強く望んでいることを押さえ、第4場面の読み取りへと進みたい。

「しらべる・ふかめる」段階では、第4場面をじっくりと音読し、今までのかげおくりとの違いを意識しながら読ませたい。叙述を丁寧に沿って、かげおくりの人数だけでなく、ちいちゃんの様子のおかしいところや不思議な現象が起こっていること等、第1場面との違いを明確にする。それを踏まえ、一人でかげおくりをしているちいちゃんの心情に迫る。第1場面で話し合ったかげおくりに対し、本場面でのかげおくりはどんなものであったかを話し合いの柱とし、ちいちゃんのおかれている状況やの心情について考えていく。自分の考えの根拠となる言葉や文を明らかにしながら、ワークシートに自分の考えをまとめる。個人でのワークシートへの書き込みの後、グループでの話し合いをする。話し合いに入る前に、聞き方・話し方・話し合い方について、簡単に復習しグループ学習を始める。特に、ガイド役の児童がスムーズに話し合いを進めるために、単元で継続して使用していく話し合いカードを参考にさせる。グループでまとめた意見を元に全体での話し合いを行う。全体での話し合いでは、それぞれの意見に対しての話し合いを展開し、一つの意見に集約するのではなく、多様な見方・感じ方に違いがあることに気づかせる。

「ふりかえる」段階では、グループや全体での話し合いをもとに、学習のまとめを行う。そして最後にもう一度、ちいちゃんの状況や心情を想像しながら音読をさせることで、余韻を持たせる。

「いかす」段階では、話し合いに関して、自己評価を行わせ、達成状況を確認させる。また自分の考え方の深まりに影響を与えた発言を発表し合わせることで、話合うことの意義や互いの意見のよさを認め合える場にし、次時の意欲付けを図りたい。

(3) 本時の実際

○支援 ※評価 【評価方法】

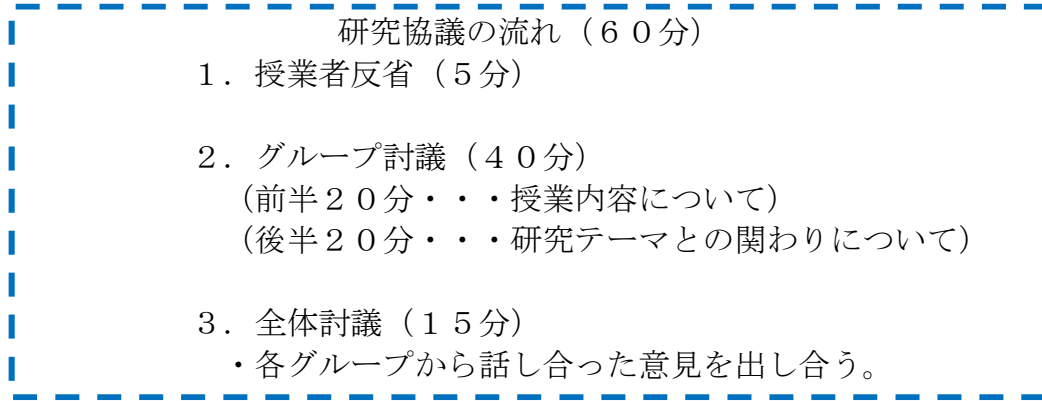
過程	主な学習活動	時間	形態	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとめ	1 前時の学習を振り返り、学習の進め方を確認する。 2 本時のめあてを設定する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ちいちゃんにとって、どんなかげおくりだったのでしょうか。</div>	3	全体	○ 第1～第3場面までの物語の流れを想起させ、本時への意欲付けを図る。 ○ 第1段落の学習を想起し、本時の学習を確認する。
	3 叙述に沿って、2つのかげおくりを比較する。 (1) 第4場面を音読し、場面の様子を大まかにとらえる。 (2) 第1場面でのかげおくりを想起し、4場面のかげおくりと同じところや違うところを出し合う。 4 第4場面のかげおくりは、ちいちゃんにとって、どんなかげおくりだったのかを考え、話合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">~~~~, ~~~かげおくり (様子) (気持ち)</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族に会えてうれしいかげおくり</li> <li>・ふらふらしながらがんばったかげおくり</li> <li>・死んでしまいかわいそうなかげおくり</li> <li>・ひとりぼっちのさみしいかげおくり</li> <li>・空にすいてまれたかなしいかげおくり</li> </ul> </div>	14	個人全体  個人全体	○ 場面の様子を確かめながら、じっくりと音読させる。音読後に、いつ、どこで、だれが、どうしたのかを丁寧に確認する。 ○ 叙述を丁寧に沿って、かげおくりの人数だけでなく、ちいちゃんの様子のおかしいところや不思議な現象が起こっていること等、第1場面との違いを明確にする。 ※ 会話や動作を表す言葉や自分の体験等をもとにして、場面の様子や登場人物の心情を想像しながら読んでいる。【観察・ワークシート】 ○ ちいちゃんにとって、どんなかげおくりだったかを、ちいちゃんの置かれた状況や周りの様子、ちいちゃんの気持ちを踏まえて考え、グループ→全体で話し合う。 ○ 発表するときには、根拠となる言葉や文を明らかにして考えを述べるようにする。 ○ 友だちの意見を、自分と比べながら聞かせるとともに、話し合いカードを提示し、質問や付けたし、賛成・反対等の意見を出し合わせる。 ※ 自分の考えを、根拠を明らかにして話すことができる。【ワークシート・発言】 ※ 自分の考えと同じところや違うところを比べながら読むことができる。【ワークシート・発言】
ふりかえる	5 学習のまとめをする。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">~~~~, ~~~かげおくり</div> 6 場面の様子が分かるように、音読する。	5	全体  グループ	○ 多様な意見にふれ、見方・感じ方に違いがあることに気づかせる。 ○ 題名との関連にふれる。 ※ 叙述をもとに、主人公の心情を読み取ることができる。【ワークシート・発言】
いかす	7 自己評価を行い、次時の学習についての見通しを持つ。	3	個人全体	○ 話し合いについて、単元を通した振り返りカードをもとに、個人での自己評価をおこなう。 ○ 話し合いの中で、考えが変わった児童やより深まった児童を紹介し、話し合いの深まりを実感できるようにする。

#### (4) 評価

- 会話や動作を表す言葉や自分の体験等をもとにして、場面の様子や登場人物の心情を想像しながら読んでいる。
- 自分の考えと同じところや違うところを比べながら読むことができる。
- 自分の考えを、根拠を明らかにして話すことができる。

### Ⅲ. 授業研究

#### ①研究協議の進め方



#### ②グループ討議の進め方

\*3チームに分かれて話し合う\*

- 1 グループ…低学年部（司会係：仲山先生）…助言者：校長先生
- 2 グループ…中学年部（司会係：窪菌先生）…助言者：東先生
- 3 グループ…高学年部（司会係：林先生）…助言者：教頭先生

\*校長先生、教頭先生、指導助言の先生も各グループの助言者として討議に参加していただく。

（前半20分・・・授業内容について）

- ・ふせんをもとに、授業内容のよかった点・課題や授業者への質疑について話し合う。（10分）
  - ①指導案にふせんを貼りながら、一人一人気が付いたことを発表する。
  - ②共通点・相違点を話し合う。
  - ③質疑・授業への意見・課題を司会係がまとめる。  
\*授業者もグループ討議に参加する。

・質疑応答, 授業への意見（10分）

- ①チームごとに司会係が意見・質疑を発表する。（指導案を書画カメラに写しながら。）
- ②各チームから出た質疑に対する応答。また、意見・課題をまとめ、後半の討議の柱を決める。

（後半20分・・・研究テーマとの関わりについて）

- ・今後の課題や共通実践事項について話し合う。（20分）
  - ①課題について、ふせんに各自で解決策を考え書く。（3分ほど）
  - ②課題の解決策を一人一人発表する。
  - ③シートを活用しながら、出た意見を整理する。
  - ④共通実践事項を決める。



全体討議で、司会係がチームごとに出た意見を発表する。

#### IV. 資料

##### ①各学年の「話すこと」「聞くこと」の目標と内容

	第1学年及び 第2学年	第3学年及び 第4学年	第5学年及び 第6学年
対象	相手	相手や目的	目的や意図
内容	身近なこと	調べたこと	考えた・伝えたいこと
話す	・事柄の順序を考えながら話す	・筋道を立てて話す	・的確に話す
聞く	・大事なことを落とさないように聞く	・話の中心に気をつけて聞く	・相手の意図をつかみながら聞く
話し合う	・話題に沿って話し合う	・進行に沿って話し合う	・計画的に話し合う
態度	・進んで話したり聞いたりする	・工夫をしながら話したり聞いたりする	・適切に話したり聞いたりする